

■国営木曾三川公園 河川環境楽園 自然発見館（木曾三川事業所）

- 住所：**岐阜県各務原市川島笠田町 **■TEL：**0586-89-7023 **■HP：**www.kisosansenkoen.go.jp
■施設概要：国営木曾三川公園・河川環境楽園内にある環境学習施設であり、川の自然環境や生態が学習できるように工夫された4つの工房から成り立っている。野外フィールドとしては敷地内に人工河川である「木曾川水園」や自然河川の「新境川」が隣接する。これらの多様なフィールドを活用した環境教育プログラムが47種類用意され、学校の校外学習や一般家族のレクリエーションなどに利用されている。
■発注者：木曾三川公園管理センター・指定管理者
■受託年：平成11年7月～ **■休館日：**8月を除く毎月第2月曜日（休日の場合は直後の平日）、12/31～1/1
■職員人数：5名



●主な業務内容

- 学校団体の校外学習の対応／同時4クラス（160名）
- ネイチャーイベントと呼ばれる一般家族向けのプログラム提供
- 日常的な来園者への対応／年間約30万人
- 展示物の作成
- 環境学習プログラムの企画・運営
- 自然環境調査

●業務経歴

- 平成10年度までに委託されていたプログラム開発に関する業務に引き続き、平成11年からは公開コンペの結果、「国営木曾三川公園環境教育プログラム運営補助業務」を受託し、平成14年度からはNPO法人生態教育センターが受託し業務を行っている。
- 自然発見館で展開する常設の有料プログラムは、クラフト系18種、観察系11種、ワークショップ系16種、特別プログラム2種の合計47種のプログラムを準備し、対象は幼稚園（保育園）から高校生・大人まで幅広くカバーし、特に小学校に対応したメニューに力を入れている。

●業務実績：令和2年度

- 環境教育プログラムを1,054回実施し、参加人数は16,341名という多人数の受入れが特徴。その内訳は、団体利用は学校団体は158クラス4,703名、一般の団体は62回1,780名、合計6,483名の参加者になった。また、一般向けイベント型プログラムの参加者は、422回5,649名、無料のネイチャーガイドは412回4,209名の参加者であった。
- 令和2年度は、新型コロナウイルス対策の影響で臨時休園の期間がありかつ、主催行事では定員の半分に制限するなど通常のプログラム運営は十分実施できなかったが、それでも感染症対策を十分行い、安全安心の国営公園というフィールドで自然を楽しむきっかけづくりの場を積極的に創出した。
- 学校団体は、小学校低学年～中学年が中心である。教育のプロである先生によるプログラムの評価では79.7%が最高評価である「非常に満足」と、高い評価を得ている。
- 木曾三川事業として、地元のみならず近隣の市町村へ出張講座として出向いたり、地元各務原市にある公園「各務野自然遺産の森」の自然体験塾講座運営を受託し、運営ノウハウを活かしながら展開している。



●施設の特徴

東海地方で有数の集客数（2020年度東海3県集客施設年間ランキング3位、年間285万人）がある環境共生型テーマパーク「河川環境楽園」。自然発見館はその河川環境楽園の中にある。平成11年7月にオープンし、都市公園として身近な動植物に直接触れあう中で、専門の知識を持った指導員と楽しみながら学ぶことができるプログラムが多数用意されている。

特徴として、国営公園という都市公園のなかで、環境教育部門は専門のNPOが担当している点で、来園される学校団体や一般家族などさまざまなニーズに対応できる多様なプログラム展開が可能となっている。オープン以来公園利用者累計として8,434万人、プログラム参加者の累計として53万人を超え、多様なフィールドを最大限活用しながら事業を展開している。



●環境教育プログラムで最も選ばれている内容（学校団体において）

○自然観察ビンゴ

（概要）その季節に観察される植物や小動物、五感で感じるものが書かれたビンゴシートに、草汁でしるしをつけながら自然を観察する。

（所要時間）1時間 （主な対象）（幼児を含め）小学校低学年～高学年 （雨天時）不適

（環境教育としての特徴）

このプログラムの特徴として、幼児から小学生低学年が「実体験」を通して自然観察することができる入口の役割や要素を持つことである。代表的なものとして、五感（目、手、鼻、耳、口）を活用しながら、自然をただ見るだけでなく、時には触ったり、耳をすましたりと、そのひとつひとつの体験をすることで、より深く自然を観察できることを目的としている。また専門の指導員が行うことで、体験を共有化（みつけたもの、感じたことを発表する）することにより、さまざまな自然への視点や観察のしかたを体得できる特徴がある。



（導入）葉っぱのてざわりゲーム （展開）公園でビンゴ
（最も選ばれている理由として考えられること）

（まとめ）みつけたものの共有

- ・小学校低学年でも実施できること。
- ・同時に4クラス（最大160名）が同じ体験ができること。
- ・小学1～2年生の生活科の教科に「身近な自然を観察する」という単元があるため。
- ・公園がフィールドのため学校の校庭より、豊かな自然体験ができること。

●当館で実施している主催イベント

○年会員イベント/より深く関わる会員制の年間講座
1年間を通して（おおむね月1回実施）、小学生向けの親子対象の「おさかなクラブ」「むしむしクラブ」「田んぼクラブ」「石ころクラブ」「河の森探検クラブ」「糸プロジェクト」の計6種類の講座を、また、幼児向けの親子対象である「ちびっこタイム」「ちびっこ手づくりクラブ」も2種類展開し、合計8種類の講座を実施した。現在コロナ禍での開催となり、感染症対策を施しながら年間を通じた活動を行った。



（↑「河の森探検クラブ」いかだづくりに挑戦の様子）

○ネイチャーイベント/身近な自然を感じたり、理解する体系的なプログラム体験

クラフト系や観察系、実験系など様々なテーマで、公園のフィールドと関連づけながら、一般家族を対象として年間を通じて主に単発で実施。夏休みの自由研究や外部施設との連携など、サブテーマも設けながら季節を体感できる内容を多数展開した。



（↑「タカの渡りウオッチング」での観察の様子）

○「幼児」のためのプログラム/自然あそびの興味・関心を高める初歩講座

未就学児の親子を対象とし、「おさかなさん、コンニチハ!!」「ダンゴムシさんをさがそう！」など、主に屋外での活動を取り入れることで、身近な自然に目を向けることで親子での自然体験活動を安全を最優先に楽しみながら実践している。



（↑「おさかなさん、コンニチハ」での活動の様子）

○子ども講座/小学生だけの講座

夏休み期間を限定として、小学生だけを対象とした内容を実施した。「こども講座本物！恐竜スピノサウルスの歯の化石発掘体験」「こども講座本物！アンモナイト化石発掘体験」など、化石発掘シリーズとして自分の力だけで発掘活動を楽しむ活動を行った。



（↑「恐竜スピノサウルスの歯の化石発掘体験」での発掘の様子）

●主催イベント以外の取り組み

○出張講座の実施

コロナ禍で児童生徒の移動が難しいなか、学校やキャンプ場などへ出向き、環境教育プログラムの提供を行った。



(↑学校へ出向いた出張講座の様子)

○地元 NPO との協働事業

地元各務原を中心に、小学校向けに環境活動を行う NPO 法人 e-plus 生涯学習研究所との協働事業を行った。国営公園の水辺のフィールドにおいて水生昆虫観察や水質調査など、楽しみながら学ぶことができる内容を実施した。



○自治体からの受託事業

自然発見館がある各務原市のなかで、市内の山間部に位置する公園である「各務野自然遺産の森（市が管理）」の自然体験塾講座運営というソフト面での協力を行いながら、森林性の環境を活かした講座を企画した。

R2 年度は、19 回 218 名の参加者があった。



(↑学校の近くの川での観察の様子)



(↑キャンプ場にてキャンドルポットづくりの様子)